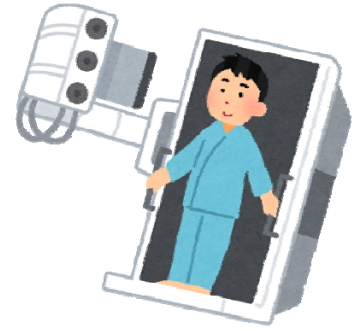


胃のバリウム検査が苦手な方へ ～どんな検査なんだろう？

健康診断などで年に一度、胃のバリウム検査(上部消化管造影検査)を受ける方は多くいらっしゃいます。しかし、大半の方が「この検査が苦手だ」とおっしゃります。

その理由としてよくあげられるのが、バリウムや発泡剤を飲む事、ゲップを我慢する事、検査台の上で身体をグルグルと回さなくてはならない事の3つです。しかしこれらは正しい診断結果を得るためにとっても大切な事であるため、受診者の方のご協力が必要不可欠なのです。



そこで今回はバリウム検査の方法とご協力が必要な理由についてご説明いたします。

胃のバリウム検査とは、胃の内部にバリウムを付着させることで胃の輪郭や病変部分を写しだし診断をする検査です。

胃は通常、空気を入れる前の風船のように萎んでいます。ですから、そのままバリウムを飲んでも、胃の内部にバリウムをまんべんなくはりつかせることができません。これでは病変を見つける事は出来ません。

そこで発泡剤を飲んで胃を膨らませ、ひだを伸ばしてからバリウムを飲みます。胃の中のひだを伸ばし、バリウムを貼りつかせることで小さな病変も見つけやすくなります。発泡剤とバリウムを両方飲むのはこのような理由からです。

しかし、ゲップをしてしまうと、せっかく膨らんだ胃が一気に縮んでしまいます。これでは病変なのか正常なのか見分けがつかなくなってしまいます。ですから、検査終了までゲップを我慢していただくなくてはなりません。

そして、検査台の上でグルグル回ってもらうのは、胃液や粘液などを洗い落としながら、胃の内部にバリウムを付着させる事が目的です。しかし、バリウムはすぐに胃からはがれてしまうため、撮影する度に回ってもらわなければなりません。

さらに放射線技師が「素早く回って下さい」とお願いすることがあります。それは胃の中のバリウムが次の臓器である十二指腸に流れてしまうのを阻止するためです。十二指腸にバリウムが流れてしまえばレントゲン上で胃と重なってしまい、見える範囲を狭くして病変を隠してしまう事があるからです。

検査時の上記3つのお願いの他に、検査終了後にも大切なお願い事があります。それは水分をたくさん取る事です。

検査で飲んだバリウムは体内に吸収されることはありません。便と一緒に体外に排泄させるため下剤を飲んでいただきますが、水分が少ないとバリウムはお腹の中で固まって便秘になる可能性があります。そのため、できるだけ水分を多く取ってもらう必要があるのです。

バリウム検査はいろいろとお願いすることも多いのですが、食道、胃、十二指腸の病変をチェックするため、特に胃がんの早期発見には有用な検査です。

胃がんは日本では発症リスクが高いと言われていています。特に症状が無くても、年に一度だけ頑張って受診していただき、早期発見・早期治療に繋がしましょう。